

＼ KORECからのお知らせ ＼
KOREC Message

地域連携科目

地域連携センターが募集するプロジェクト活動のうち、一定の要件を満たしたものを単位として認定する事前登録科目です。

〈2025年度対象プロジェクト〉

関西湾岸SDGsチャレンジ、ぼうさい授業、とっとりキャリア教育学生プロジェクト、阪急西宮ガーデンズ連携プロジェクト、SDGsの実践プロジェクト～放置竹林問題を考える～

科目区分	履修対象	科目名	単位
キャリア創生 共通科目	全学部	地域プロジェクトI ^(※)	2
		地域プロジェクトII ^(※)	2

ボランティア科目

ボランティア活動の実績をもとに単位を認定します。単位は、ボランティア活動そのものについて認定するのではなく、ボランティアの経験によって学んだことをまとめたレポートによって評価します。

科目区分	履修対象	科目名	単位	時間数
キャリア創生 共通科目	全学部	実践ボランティアI ^(※)	1	30時間
		実践ボランティアII ^(※)	1	30時間

(※) 上記科目は、入学年度や所属学部により、科目名称・配当年次・履修制限・卒業単位としての取り扱いが異なります。履修要項を確認して履修するようにしてください。また、4月にガイダンスを実施しますので、興味のある方はご参加ください。詳細はMyKONANをチェック!

KONANボランティアサーティフィケート

KONANボランティアサーティフィケートは、ボランティアや地域活動の実績に応じた級を学長名で授与する制度です。3つの級を設けており、各級に共通して、ボランティアに取り組む自発的な行動力と継続力を基本的な力として重視しています。それをもとに、ボランティアや地域連携に必要な知識や探究心、情報発信力や企画力、および自ら課題を発見し解決する力などを多面的にみて認定します。

授与されるオープンバッジは認定ごとに**3種類**



[3級 ブロンズ]



[2級 シルバー]



[1級 ゴールド]



ボランティア
サーティフィケート
ページ

＼ ボランティア活動・地域連携活動をやってみよう! ＼

LET'S KOREC

STEP
01

情報を探す・申し込む

地域連携センター窓口、HP、MyKONAN、ML等でボランティア活動や地域連携活動の情報を紹介しています。興味・関心のある活動に積極的に申し込みましょう。気になることや、わからないことがあれば地域連携センターまでお越しください!

ML(メールリスト)



地域連携センターHP



STEP
02

活動に参加する

活動前に事前説明会への参加や募集チラシなどを確認して準備をしましょう。分からないことや困ったことがあれば一人で抱えず相談しながら進め、関わる人々と「共に学ぶ」姿勢を大切にしながら、活動に参加しましょう。

STEP
03

活動を記録する

活動記録ノートに活動内容を記録して、KONANボランティアサーティフィケートや単位の取得を目指しましょう。



ACCESS
MAP

12号館1階
地域連携センター(KOREC)

甲南大学 地域連携センター(KOREC)
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 12号館1階
TEL : 078-435-2276 FAX : 078-435-2302
e-mail : korec@ml.konan-u.ac.jp



甲南大学地域連携センター

KOREC

[コレック]

2026

学びの、その先へ。

Beyond Borders of Learning



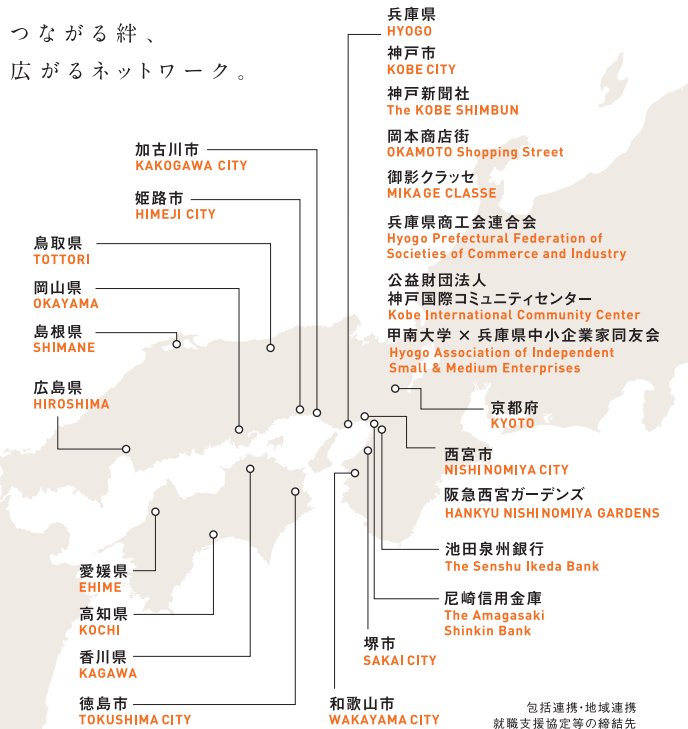
What is KOREC

KONAN University
Regional Liaison
Center

大学と地域が繋がり、共に創る地域連携。

地域連携センター (KOREC) は2011年の開設以来、ボランティア活動の推進や、地域とつながる学びの機会づくりに取り組んできました。私たちが目指すのは、大学が「知のプラットフォーム」として、地域の産業やコミュニティの発展に寄与し、地域社会とともに歩むことです。地域連携の現場は学生たちの学びの場として有益で、授業で学んだ知識は、現場に出てさらに問い直され、磨かれ、力になります。相手の立場を想像し、言葉を尽くし、仲間と協働しながら、提案で終わらずに現場で確かめ、改善し、小さくても「形」として残す。その積み重ねが、社会に貢献できる力となり、学生一人ひとりの人間の成長にもつながります。私たちは、地域の皆さまと課題やビジョンを共有し、次の一步を共に考えるパートナーでありたいと考えています。学生・教職員・地域・企業・自治体・卒業生など、多様な人が関わり合い、対話し、それぞれの強みを持ち寄って課題に向き合い、未来を切り拓く。そうした場を創出し、大学の教育・研究の成果を地域へ還元していくことが、私たちの大切な役割です。地域連携センターは、地域の皆さまとの相互に実りある関係を大切にしながら、学びが地域の未来に結びついていく機会をつくります。“学びのその先へ。”その歩みを、地域とともに進めてまいります。

つながる絆、
広がるネットワーク。



Volunteer Activities

ボランティア活動について

多彩なボランティア情報のなかから、
貴重な出会いとなる活動がきっと見つかる。

甲南大学と地域をつなぐ窓口である地域連携センターには、さまざまなボランティア情報が集まります。いままでボランティア経験がない人でも気軽に参加でき、自分の興味に関連のある活動はもちろん、将来にも役立つような体験に出会うことができます。



文学部 日本語日本文学科 4年生
神戸 柚香莉さん

神戸市学生スクールサポーター

参加するたびに学びがあり、
世界が広がっていく実感。



大学2年生から約1年間、神戸市立本山中学校で学習支援を行う「スクールサポーター」に参加し、外国人生徒や学習に悩む生徒への個別支援に取り組みました。3年生のときには東京海上日動火災保険や神戸市と連携し、中学生向けの「ぼうさい授業」にも参加。防災について一から学び、楽しく学べる授業づくりを考えました。活動を通じて教育現場への理解が深まるとともに、コミュニケーション力や傾聴力の成長にもつながったと思います。ボランティアは、参加するたび交友関係も広がり、自分の世界が豊かになっていく実感があるので、ぜひ挑戦してみてください。

Cooperation with Partners

学・産・官
連携プロジェクト

大学という枠を超えよう！
甲南大学ならではの地域連携

甲南大学は、地方自治体、コミュニティ、企業などと連携協定を結び、学・産・官が協力しあいがながらの社会貢献活動を積極的に推進。これにより、学生たちが参加できる地域活動の舞台がますます拡大しています。

甲南大学×東京海上日動×神戸市

甲南大学と東京海上日動火災保険・神戸市が共同で
中学生に「ぼうさい授業」を実施。



東京海上日動火災保険のCSRの取り組みの一つである「ぼうさい授業」を神戸市立立島中学校の2年生を対象に実施しました。神戸市職員にもアドバイスをもらいながら、防災に関するワークショップに取り組みます。2025年度には、「避難行動および避難生活を考えよう」をテーマに、災害時に起こる混乱や問題への主体的な対応力向上をめざして、ハザードマップをもとに洪水と地震での避難行動の違いや、避難所で起こりうる問題をゲーム形式で実践的に考える授業を実施しました。

KONAN Premier Project

地域と繋がる
活動助成金

学生ならではのアイデアをカタチにし、
地域貢献として実現するチャンス。

地域連携センターでは、学生たち自らが企画する活動も積極的にサポート。KONANプレミアプロジェクトの「地域と繋がる活動助成金」を活用すれば、地域貢献のためのアイデアを実現することも可能です。



「お残しは
許しまへんで」
チーム

グローバル教養学部
2年生
鈴木 凱晴さん

グローバル教養学部
2年生
厚東 満帆さん

ドギーバッグの普及を通じて、食品ロスの問題をもっと広めたい。

授業で食品ロスの現状を学んだことをきっかけに、ドギーバッグの普及をテーマとした活動を開始。甲南大学の研究イベント「リサーチフェスタ2024」に参加し、ドギーバッグを活用した提案を発表、ビッグデータ賞を受賞しました。これを機に「お残しは許しまへんで」チームとして継続的な活動を決定し、イベント出展や啓発企画を通じて認知度向上に取り組んでいます。また、「地域と繋がる活動助成金」を活用し、イベント運営に必要な備品の購入や資料制作費に役立てました。助成金の申請にあたっては、活動の目的や社会的意義、期待される効果を具体的に言語化する必要があり、自分たちの取り組みを客観的に見つめ直す良い機会にもなりました。

KONAN Certificate

KONAN
サーティフィケート

自主的に取り組むボランティア活動。
その努力を大学として評価し、1~3級を授与。

甲南大学の皆さんの自主的な努力や挑戦を評価するKONANサーティフィケート。そのなかには、ボランティアや地域活動の取り組みで認定されるボランティアサーティフィケートがあります。



法学部 法律学科 3年生
坂本 蒼依さん

消極的だった高校までの生活が、出会いや発見からアクティブな日々へ。

大学入学後、最初に参加したのは「イノセンス・プロジェクト・ジャパン (IPJ)」でのボランティア活動でした。冤罪被害を訴える方々の救済支援に携わり、法学が社会課題と直結していることを実感。当初は先輩の勉強会への参加がきっかけで、サーティフィケートへの挑戦も就職活動を意識した理由から始めました。しかし、活動を重ねるうちにその面白さに気づき、分野を越えて挑戦の幅が拡大。参加者が集まらなかったイベントでは自らチラシ配布を行い開催へ導くなど、「まず行動する」姿勢が身につきました。また、申請に必要な活動記録ノートを作成を通じて、1年間の取り組みを客観的に振り返ることができました。サーティフィケートは、積み重ねた経験を大学が公式に認めてくれる「証明書」のような存在です。活動への自信が資産となり、胸を張って社会に伝えるための武器になっています。

*学年は撮影時のものです。